

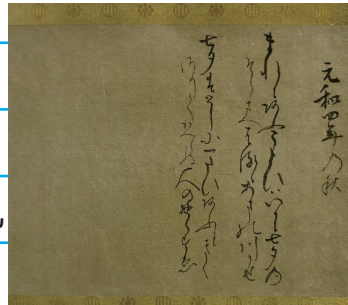
## 12. 仙台の七夕の歴史

### ■七夕の起源と日本への定着

- ・織女（織姫、琴座のベガ）と牽牛（彦星、鷲座のアルタイル）の伝説にちなみ技芸の上達を願って祝われた祭り（乞巧奠）
- ・乞巧奠が日本に伝わり、持統天皇 5 年（691）には宮中行事として取り入れられている
- ・万葉集には七夕和歌 130 首
- ・宮中や武家で祝われてきた七夕の節句が江戸時代に入って、庶民の年中行事にもなっていた

### ■政宗公と七夕

- ・天正 17 年（1589）7 月 7 日米沢城に唐人 3 人が来て花火をやり、歌を歌った
- ・元和 4 年（1618）7 月 7 日 仙台城本丸の博多の間で家臣らに料理を振る舞い、和歌を詠んだ↓



元和四年乃秋伊達政宗和歌詠草  
仙台市博物館蔵

- まれにあふ 今宵はいかに 七夕の そらさへはるる あまの川かせ
- 七夕は としに一たひ あふときく さりてかへらぬ 人のゆくすえ
- ・他の年にも詠まれたようで 8 首の政宗公の七夕和歌が伝わる
- ・政宗公の七夕は、寛永 3 年（1626）7 月 7 日 二条城登城、寛永 4 年（1627）柴田郡砂金で川狩中に和歌 1 首、寛永 6 年（1629）和歌 2 首を詠んだ記録が散見される

【No.12】  
2021 年 8 月 4 日



### ■江戸時代の仙台の七夕

- ・元禄年間に江戸で笹飾りが使用される→仙台に伝わり独自の発展
- ・仙台では豊作を願う田ノ神への祈りが込められていたという
- ・7 月 15 日のお盆を迎えるための行事という要素も
- ・もともと 7 月 7 日に飾り 8 日に笹飾りを川に流す行事であったが、6 代宗村公か 7 代重村公の時に障りがあって、6 日に飾り付けをし、7 日早朝に川に流すようになった
- ・五色の色紙に短冊を書き、団扇や扇などを女性が作り笹竹に飾った
- ・仙台七夕七つ飾りはいつから？
- ・町人町も侍屋敷も飾っていたという
- ・明治に入り旧侍屋敷では廃れたが、商店街が大売出しと併せて七夕まつりを開催→飾り付けコンクールの実施→盛大化
- ・明治 43 年以降新暦 8 月 6・7 日で開催（中暦・月遅れ）
- ・戦中は開催せず→戦後昭和 21 年に開催、昭和 22 年には、昭和天皇東北巡行に併せて 8 月 5 日に前倒しして実施
- ・翌昭和 23 年から 8 月 6・7・8 日の 3 日開催となった



「参詣記」より 仙台市博物館蔵  
国分町伊勢屋手代 佐吉著